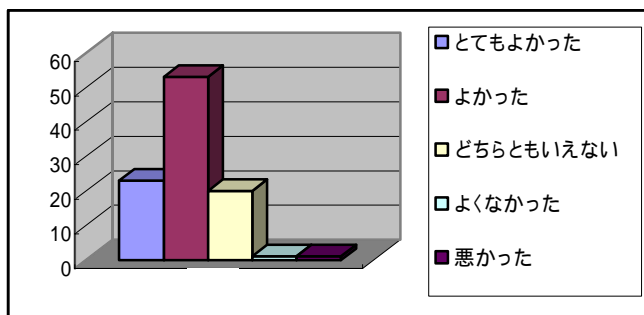


## カーボン・オフセットフォーラム キックオフ・ミーティング アンケート集計（暫定版）

提出率 約 31%（101 枚 / 約 330 名参加）

### 1. 本日のキックオフ・ミーティングのご感想は？

とてもよかった	23
よかった	53
どちらともいえない	20
よくなかった	1
悪かった	1



#### 【1の総括】

全体像がつかめて概略が理解できよかったという声が多かった一方で、適切に運用されるための仕組みについて何ら具体的な話がなかったという意見も多数示された。

#### 【1の具体的コメント】

< 講演内容について >

- ・ 末吉氏の講演が興味ぶかった。（多数）
- ・ 海外での CO2 ビジネス、カーボン・オフセットの解説が参考になった。
- ・ カーボン・オフセットを取り巻く世界の動向、金融市場、消費市場の考え方の変化について、具体的な話がきけたことが良かった。
- ・ 非常に多くの人が集まり、カーボン・オフセットという日本では新しい取組のキックオフがなされたと思う。
- ・ カーボン・オフセットから温暖化防止につながる場所に確信がもてなかった。本当に GHG 削減につながるのか？
- ・ 末吉氏の全体像と、信時氏の自治体の具体的な取組の説明がよかった。
- ・ 環境に対する世界、日本の現状の位置が理解できた
- ・ 基本が理解できた。わかりやすかった。知る、減らす、オフセット
- ・ 概念はわかるが、実際の一般人の意識等に関する話がない。
- ・ 行政ではなく、民間の取組がよくわからない。
- ・ 全体的なことが把握できた。
- ・ 手引書が得られた。
- ・ キックオフの割に内容が不透明すぎる。何を期待してよいのかわからない。
- ・ 基調講演と環境省局長の挨拶がよかった。
- ・ もう少し強い主張が必要と思った。
- ・ アドバイザーの方の決定理由と、役割を公開してほしい。
- ・ 方向性をひとつにしようという意図が感じられた。
- ・ 起源それと英国を軸とする各国が国をあげてビッグ・ビジネスチャンスとみて本気で取り組んでいることがわかった。
- ・ 宇高氏の話に具体性がありよかった。
- ・ オフセットに一般企業が本気で取り組めるか疑問。
- ・ 用語が日本語で説明できるように。

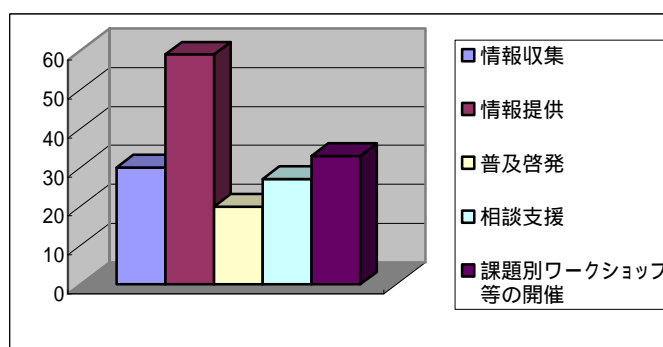
- ・ オフセットをめぐる世界の動き、審査の動向等
- ・ 外国の取組、具体的にどういったビジネスにしていけるのかを知ることができた。
- ・ カーボン・オフセットを普及するに際しての問題点・解決策が聞けると期待していたのにそれらへの言及がなかった。
- ・ 具体性がない。オフセットが適切に運用されるための仕組みについて何ら進展がなかった。
- ・ 考え方等については、理解できたが、具体的な取組方法がみえなかった。 (3)

< ロジについて >

- ・ 時間が押しすぎる
- ・ もう少し時間をかけて宇高氏の話がききたかった。
- ・ アドバイザー、フォーラム等の紹介は WEB の公開でも十分では。
- ・ 進行にそったレジュメが用意されていないのは理解できない。加えてスクリーンが良く見えない。

## 2. カーボン・オフセットフォーラムに対して次のどの活動に期待しますか？ (2つまで回答可)

情報収集	30
情報提供	59
普及啓発	20
相談支援	27
課題別ワークショップ等の開催	33



### 【2の総括】

オフセットの仕組みを構築し、具体的手法に関する情報を提示してほしいとの要望が多く、また、課題別ワークショップへの期待も示された。

### 【2の具体的コメント】

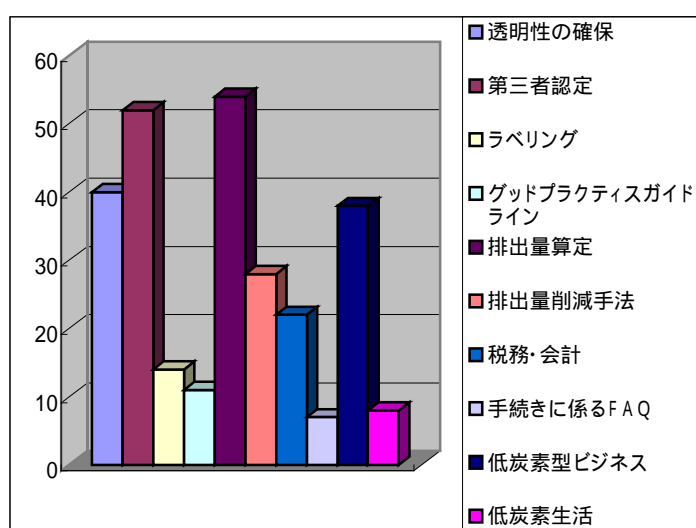
- ・ まだまだスキームが不明確なカーボン・オフセットに対して指針となる方向性を示してほしい。
- ・ 自治体に取り組むべきカーボン・オフセットの具体的手法を示してほしい。国や自治体の政策とその評価に関する情報提供や、より具体的な事例を積極的に紹介してほしい。(2)
- ・ 国内外の事例紹介(算定例の情報含む) (7)
- ・ オフセットの手法、効果の測定、検証・認定・第三者認証といった仕組み作り(2)
- ・ 今後ケースバイケースで算定やCO<sub>2</sub>割当方法等の問題が発生すると考えられるので、ワークショップ形式でのトレーニングに参加したい。
- ・ 消費者や中小企業にインセンティブを与えるような仕組み、ビジネス・スキーム作り(融資含む) (4)
- ・ 一般国民へのPRが必要 IT、新聞、雑誌等
- ・ オフセット・スキームに関する具体的な計画立案、推進までの事例等を示すべき。事例

の紹介はすでに情報は十分。

- ・ ネットワークの構築、業界別の意見交換 (2)
- ・ 中小企業のサポート
- ・ 国内 CDM 実務
- ・ 排出権の細分化
- ・ 吸収源、特に森林によるカーボン・オフセットの仕組み、標準（特に持続性の捉え方） (2)
- ・ カーボン・オフセットは自主的なもの。これが国の達成目標と具体的にどうつながっていくか、その仕組み。
- ・ カーボン・オフセット白書のような概説書がほしい
- ・ ウェブで早めにワークショップの予定を決めてほしい。

### 3. カーボン・オフセットにおける課題として次のうちどのテーマに関心がありますか？ (3つまで回答可)

透明性の確保	40
第三者認定	52
ラベリング	14
グッドプラクティスガイドライン	11
排出量算定	54
排出量削減手法	28
税務・会計	22
手続きに係るFAQ	7
低炭素型ビジネス	38
低炭素生活	8



#### 【3の総括】

排出量の算定、第三者認定、透明性の確保への関心が強く示され、ついでそれらが担保された上での低炭素ビジネスへの期待が示された。

#### 【3の具体的コメント】

- ・ オフセットの運用、クレジットの基準作り
- ・ カーボン・オフセットの法人税務上の取り扱い（有税か無税か）
- ・ 排出量算定基準の策定（DEFRAのCODEを参考に）
- ・ 第三者認定にもかかわるテーマだと思う。金銭の流れについての透明性。
- ・ 透明性の確保と合わせて、カーボン・オフセットに割り当てるCERの確保等についてもJ-COFで指導してもらいたい。たとえばJ-COFでCERを安価に購入して販売するなど。
- ・ 一般的でなく、将来にわたりCO<sub>2</sub>を削減し、持続可能な社会作りに資する第三者認定のあり方。
- ・ オフセット商品がわかるようなラベリングや取組企業が得をする税務・会計制度の設計
- ・ 中小企業にもできる低炭素ビジネス
- ・ 如何にグリーン・ウォッシュではなく、ステークホルダーに説明責任を果たすか
- ・ 認定された商品のラベリングの基準など
- ・ 算出量の透明性と比較可能性 (3)
- ・ CO<sub>2</sub>排出量の見えるかを具体的にどうすすめるか、バウンダリの例示等 (2)

- ・企業が CSR、マーケティングの両面からカーボン・オフセットに取り組む事例と考え方
- ・具体的に実行する場合の手続き
- ・誰がいつ誰のクレジットの価値判断が必要だと考え、それをカーボン・オフセットするのかについての情報を、事業者に正しく提供する必要がある。
- ・オフセットされる GHG 量の正当性につながる一連のプロセス。第三者認定。(2)
- ・クレジットの質(どの国のどのプロジェクト由来かも含め)の透明性
- ・コンサルタント、勉強会を開催するためのベース、教科書がほしい。
- ・森林吸収源関係、3条4項にかかわる規制・運用規約
- ・カーボン・オフセットの国内ルールの構築
- ・公平な計測と対策効果
- ・購入電力削減効果の適正な算定・評価が大切。
- ・認定は国連 CDM 理事会のような厳しいものにする必要がある。
- ・市場選考で進むオフセットには何より透明性が重要であるため、認証、認定、ラベリング等の公的な確立が早急。
- ・植林する際は CO2 の観点だけではなく、生態系保護、水源滋養などの観点も十分考慮すべき。見た目がきれいな桜やもみじばかり植えていてはだめ。その地域にあった樹種を選定し、またちゃんと成長するようにメンテナンスも行うべき。
- ・中小企業の排出量の算定、報告提出等の業務及び排出権取引業務
- ・VER について詳しく知りたい
- ・企業だけでなく、一市民としての取組の事例紹介

#### 4. 事務局では FAQ 作成を進めておりますが、具体的に追加が必要な Q としてどのようなものがありますか？

##### 【4の総括】

オフセットサービスを提供する側、および利用する側、それぞれにつき、具体的な手法の提示、その認証・検証制度の整備についての要望が多い。個別では、森林クレジットの扱い、および法人会計・税務における手続きに関する質問が複数見られた。

##### 【4の具体的コメント】

- ・用語の説明
- ・カーボンクレジットを小口で買って再販売する場合のルール
- ・個人や企業がカーボン・オフセットのサービスを受ける具体的な方法 (2)
- ・カーボン・オフセットサービスを提供する際の具体的なガイドライン (2)
- ・排出量の算定 (2)
- ・効果の算定・評価
- ・オフセットするための排出権は誰がどこから購入するのか？J-COF が仲介してくれるのか。
- ・CO2 排出量の見えるかを具体的にどうすすめるか、バウンダリの例示。
- ・カーボン・オフセットに関する日本の法整備
- ・排出権取引に関する企業の取組とマイナス 6% の関係
- ・税務、会計上の処理
- ・法規制度の整備について
- ・海外との貿易(航空貨物)により発生する CO2 の排出方法(国と国でどう振り分けるのか)
- ・オフセット商品とクレジットとの関係。その基準作りは怎么样了のか。
- ・植林吸収源活動のオフセットを考えている。必要な手続き(ベースラインの算定等)を知りたい。(2)

5. 事務局では今後定期的にセミナー開催を計画しておりますが、どのようなテーマ・内容での開催を希望されますか？

【5の総括】

セミナー希望テーマとしては、国内外の具体的な事例紹介がもっとも多く、ついでオフセットの具体的な仕組み、および排出権取引があげられた。

【5の具体的コメント】

- ・具体的な事例（海外（英国等）の先進事例、およびその他国内外の事例）、特に実施者としての立場からの話などの紹介（10）
- ・第三者認定（4）
- ・排出量削減手法
- ・サービスに必要なより具体的なガイドライン
- ・カーボン・オフセットの共有データベース
- ・排出量算定、取引（マーケットメカニズム（官制経済、市場経済等、その違い等）含む）（11）
- ・相談支援という計画をより具体的に示してほしい。
- ・植林・森林管理とカーボン・オフセットの考え方（2）
- ・IGES との連携により、アジア各国の事例紹介など、盛り込んだらどうか。
- ・低炭素ビジネス（2）
- ・カーボン・オフセットにCERを使う場合、欧米では自国の目標達成として償却しているのか。
- ・カーボン・オフセットと排出権取引の違いは？
- ・普及啓発セミナー開催
- ・税務・会計
- ・クレジットのお金はどう流れていくのかを全体的に知りたい。
- ・国内 CDM、排出権の細分化等国内ビジネスの拡大（2）
- ・オフセットと政治的課題（日本マイナス6%等）の関係（ダブルカウント回避の問題含む）（2）
- ・オフセットと、京都議定書できめられた国際的仕組みとしての京都メカニズムとの関連。国連理事会運営組織等とどう関連付けるのか？

6. 今後のカーボン・オフセットフォーラムの活動に関し、ご意見・ご感想等、ご自由に  
ご記入ください。

【6の総括】

オフセットの具体的な仕組み(第三者認証制度等)の構築について期待が寄せられた。また、情報交換の場の提供も期待された。

【6の具体的コメント】

- ・普及啓発よりも、オフセットや排出量算定の基準づくりに優先して取り組んでほしい
- ・大変有意義だった。活動に期待している。近いうちに開催をお願いしたい。
- ・環境省の方の事例にしても、横浜市の事例にしても、いろいろな項目、対策が述べられているが、もっとも効果的な方法あるいはねらいの優先度が見えにくい。カーボン・オフセットによる、地球全体のCO2削減への貢献度の測定等。
- ・効きすぎた冷房の部屋の中では欺瞞にさえ聞こえる。
- ・第三者認証はISO9001、14001のような法外な検証料金を危惧している。
- ・本日の出席者の多さをみて、何かグルーピングして交流する機会、ウェブサイトのよう

なものがほしい。

- ・いつから認証制度等の手続きが整備されるのか教えてほしい。
- ・本日のキックオフ・ミーティングでどれほどのCO<sub>2</sub>が排出されたかWEBで公開してほしい。
- ・国内でのプロジェクトによるカーボン・オフセットと、AAU、RMUの関係が知りたい。
- ・定期的なセミナー開催。小さなタイプで。
- ・本日のプレゼン資料をウェブで公開してほしい
- ・カーボン・オフセットの手引きの修正については、正誤表を作成して配布すべき。
- ・部会等でよりコアな議論が必要。
- ・省エネセンター、環境省地方事務所の下部組織でも同様なキャンペーンを行いつつ、実行性を高めてほしい。

#### ウェブに掲載するときのコメント追加分

時間の配分が不十分で、アンケートを記入していただく時間が十分に確保できなかったにもかかわらず、多くのコメントをいただきありがとうございました。また、当日の発表資料は、残部等の廃棄資料削減のため配布を控えさせていただきました。当日は、画面が見つらなかった等々、ご不便をおかけいたしました。ウェブで掲載しておりますので、広くご活用ください。また、『カーボン・オフセットの手引き』につきましては、すでにウェブで掲載しております通り訂正がございます。関係者の方々をはじめとし、ご迷惑をおかけしましたことをお詫びいたします。

カーボン・オフセットの取組は緒についたばかりですが、当事務局では検討会を重ね、より良い仕組み作りに貢献してまいりたいと思います。

今後ともよろしく願いいたします。